2023 年度　卒業論文

日本のスノーリゾートにおけるインバウンド調査

経営学部経営学科

学籍番号　20161100

氏名　常田真矢

目次

１．　はじめに

1.1　研究概要

1.2　本研究の背景

1.3　本研究の目的

２．　調査方法

2.1　調査対象の選定

2.2　分析方法

３．　調査結果

3.1　調査の結果

４．　おわりに

4.1　まとめ

５．　参考資料

1.　はじめに

1.1　研究概要

本研究では、日本のスノーリゾートにおいて訪日外国人が増加していることを受け、スノーリゾートにおけるインバウンドの実態を調べるとともに訪日外国人が多く訪れるスノーリゾートの特徴を調べていく研究である。特にインバウンドの割合が高いとされるニセコ、白馬に加え 4 つのスキーエリアを選定、それぞれのエリアの特徴や外国人スキーヤーからの評価を比較していく。また、調査の結果を踏まえてインバウンド増加に有効な施策を検討する。

1.2　本研究の背景

日本におけるスキー市場の発展は、1972 年に行われた札幌オリンピックをきっかけに大きく発展してきた。その後、1982 年の東北新幹線、上越新幹線の開通や、1987 年の映画「私をスキーに連れてって」の大ヒットが拍車をかけた。1990 年代後半まで続くスキーブームは 1998 年にそのスキー人口がピークになり、1800 万人にまで及んでいる。しかし、以降はバブル崩壊の影響を大きく受けスキー人口は減少に転じた。2020 年には、

コロナ禍の影響もあり、かつては 1800 万人だったスキー人口が 430 万人にまで減少している。実際に赤字経営が続き、閉鎖してしまうスキー場が後を絶たない。

そのような状況の中、近年増加しているインバウンドに注目し、分析することによってスノーリゾートの活性化に向けた洞察を得ることはできないだろうかと考えたことが本研究を進めるに至った背景である。

1.3　本研究の目的

近年、日本でスキー・スノーボードを楽しむ訪日外国人は年々増加している。国土交通省の調査によると、訪日外国人のスノーリゾート訪問者数は 2014 年に 403,163 人だったものが 2017 年には 857,912 人にまで増加している。また、スノーリゾートでの滞在を楽しむ訪日外国人は富裕層の割合が高いように感じる。日本のスノーリゾートの発展を考えていくうえでこのような訪日外国人の存在は欠かせない。

本研究では、そのような訪日外国人が多く訪れるスノーリゾートに必要な要素を、ベースタウンでの外国人延べ宿泊者数やその割合、海外ポータルサイトでの日本スノーリゾートの評価、各エリアが取り組んでいる政策などから分析し、訪日外国人が好んで訪れるスノーリゾートにするためにはどうすればよいのかを検討することが目的である。

2.　調査方法

2.1　調査対象の選定

本研究を進めるにあたって６つのスキーエリアを選定した。すでに訪日外国人の割合が高いニセコ、白馬が第一に選定された。両スノーリゾートはエリア内に複数のスキー場が存在している。そこで残り４つのエリアも同様に、エリア内に複数のスキー場が集中しているという条件のもと選定した。なお、調査対象のバランスを考えて、インバウンド割合が高いと予想されるエリア・比較的多いと予想されるエリア・インバウンド割合が低いと予想されるエリアに分けて選定している。

また、海外ポータルサイトでのスキー場の評価を調べるにあたって、エリアごとにスキー場を複数選定している。選定にあって、それぞれのエリアから主要なスキー場かつ海外ポータルサイトで評価が記載されているスキー場を最大５つずつ選定した。

グループ	エリア	スキー場	コース数	リフト数	リフト券	最大標高	最長コース
インバウンド割合が高いと予想されるエリア	ニセコエリア（ニセコ町・倶知安町）	ニセコ東急 グラン・ヒラフ	22	13	9,500	1,200	5,600
		ニセコビレッジスキーリゾート	30	8	9,500	1,170	5,000
		ニセコアンヌプリ国際スキー場	13	6	9,500	1,156	4,000
		ニセコHANAZONOリゾート	12	4	9,500	1,040	3,300
	白馬エリア（白馬村）	エイブル白馬五竜	17	12	8,500	1,676	5,000
		Hakuba 47 Winter Sports Park	8	6	8,500	1,614	6,400
		白馬八方尾根スキー場	16	22	8,500	1,831	8,000
		白馬岩岳スノーフィールド	13	9	8,500	1,289	3,800
		白馬コルチナスキー場	16	6	8,500	1,402	3,500
比較的多いと予想されるエリア	志賀高原エリア（山ノ内町）	焼額山スキー場	16	5	7,500	1,995	2,800
		奥志賀高原スキー場	10	6	7,500	2,000	2,200
		志賀高原リゾート中央エリア	33	24	7,500	2,060	4,000
		熊の湯スキー場	10	5	7,500	1,950	1,300
		横手山・渋峠スキー場	10	7	7,500	2,307	4,500
	越後湯沢エリア（湯沢町）	GALA湯沢スキー場	16	11	6,500	1,181	4,120
		苗場スキー場	24	12	6,800	1,789	4,000
		舞子スノーリゾート	26	10	6,200	920	6,000
		上越国際スキー場	22	25	5,500	1,017	6,000
		神立スノーリゾート	13	5	5,700	1,000	3,500
インバウンド割合が低いと予想されるエリア	みなかみエリア（みなかみ町）	水上宝台樹スキー場	16	6	5,500	1,400	2,600
		谷川岳天神平スキー場	10	5	6,000	1,500	4,000
	猪苗代・磐梯エリア（猪苗代町・磐梯町）	猪苗代スキー場	18	10	5,600	1,255	3,150
		猫魔スキー場	11	5	5,500	1,337	2,100
		箕輪スキー場	11	3	5,000	1,500	3,120
		グランデコスノーリゾート	8	4	5,300	1,590	4,500
		アルツ磐梯	22	7	5,500	1,280	3,000

（図 1　対象のスキーエリアとスキー場、スキー場の基本データ）

2.2　分析方法

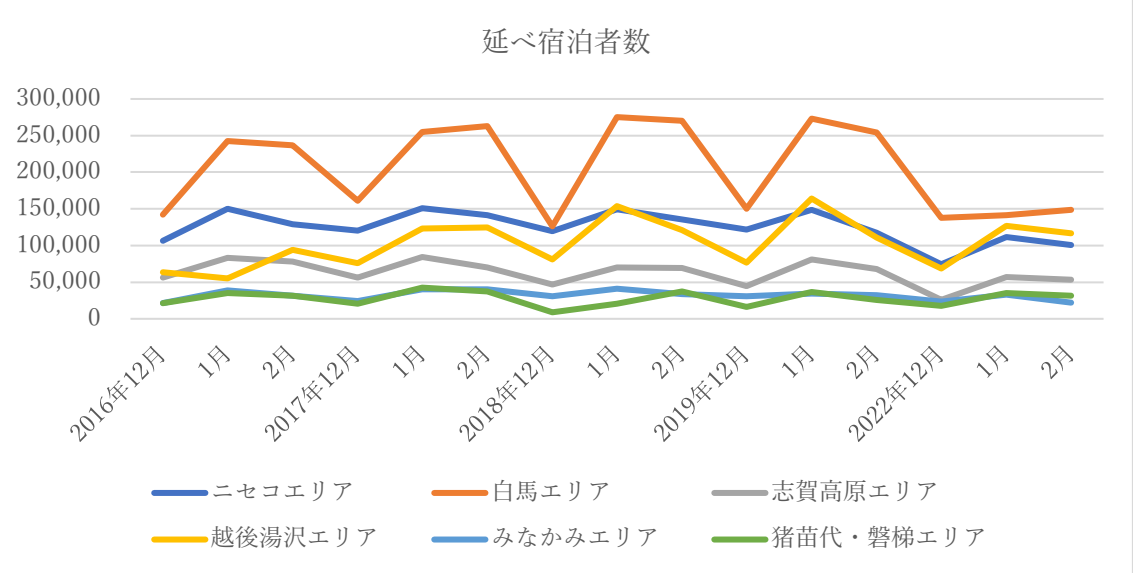
調査の対象として選定したエリアのベースタウン（図 2：対象のスキーエリアとスキー場）での延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数および外国人延べ宿泊者数の割合を分析した。また、2 つの町にまたがるニセコエリア、猪苗代・磐梯エリアに関しては、2 つの町の平均を用いている。

分析の方法については、2016 年からの過去 5 シーズン分の宿泊データ（コロナ禍のシーズンを抜いた 2016-2017,2017-2018,2018-2019,2019-2020,2022-2023 のシーズン）の時系列分析を用いて分析する。なお、5 シーズンそれぞれの 12 月、1 月、2 月を対象として分析する。その後、各スキー場の基本データや海外ポータルサイトでの評価を比較し宿泊データと照らし合わせて分析していく。

3.　調査結果

3.1　調査の結果

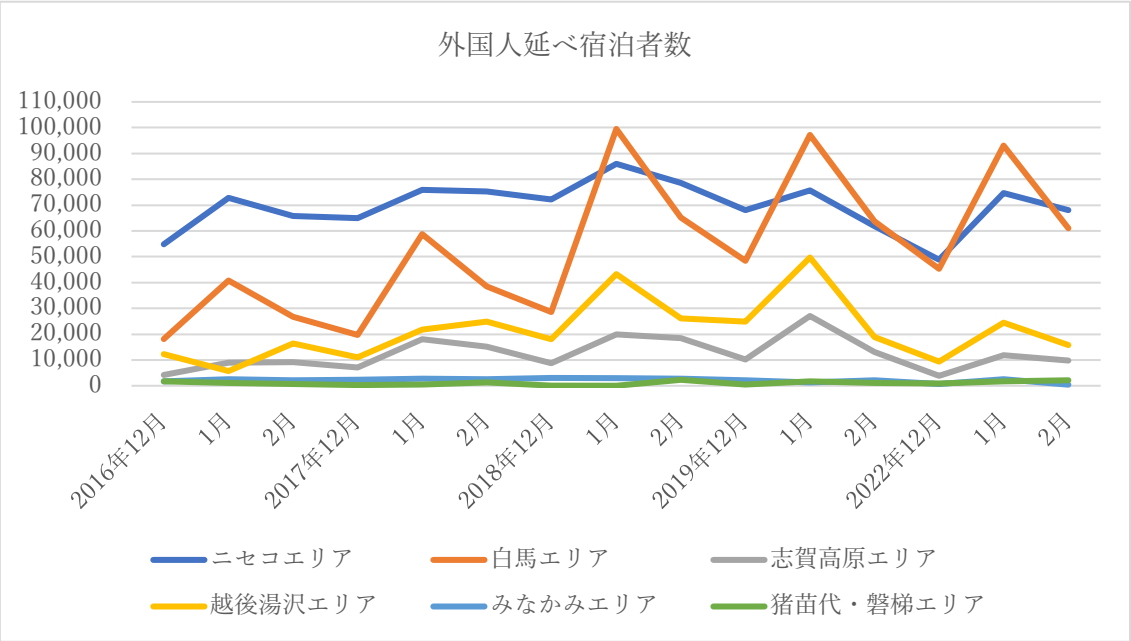
各エリアのシーズン中の延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数、外国人宿泊者割合を見る。



（図 2　各エリアの観光客延べ宿泊者数の推移：観光庁、各自治体のデータを基に作成）

まず、各エリアを訪れる観光客の延べ宿泊者数は図 2 のような結果となった。図 2 の結果を見ると白馬エリアの延べ宿泊者数が抜きん出て高くなっている。特に 2018-2019 のシーズンの 1 月は約 27 万人にも達している。1 月、2 月は観光客が顕著に増える一方、シーズン始めの 12 月との差は大きいことが分かる。

白馬エリアは宿泊業が主要産業となっており、村の宿泊施設も、民宿・ペンションを含めると 500 軒を超えるといわれており、全国トップクラスの多さを誇る地域である。同県にある志賀高原エリア山ノ内町の宿泊施設は 200 軒ほどであり白馬エリアの宿泊施設が多いことが分かる。白馬エリアに次いでニセコ、越後湯沢エリアも延べ宿泊者数が多く 10 万人を超える水準となっている。



（図 3　各エリアの外国人延べ宿泊者数の推移：観光庁、各自治体のデータを基に作成）

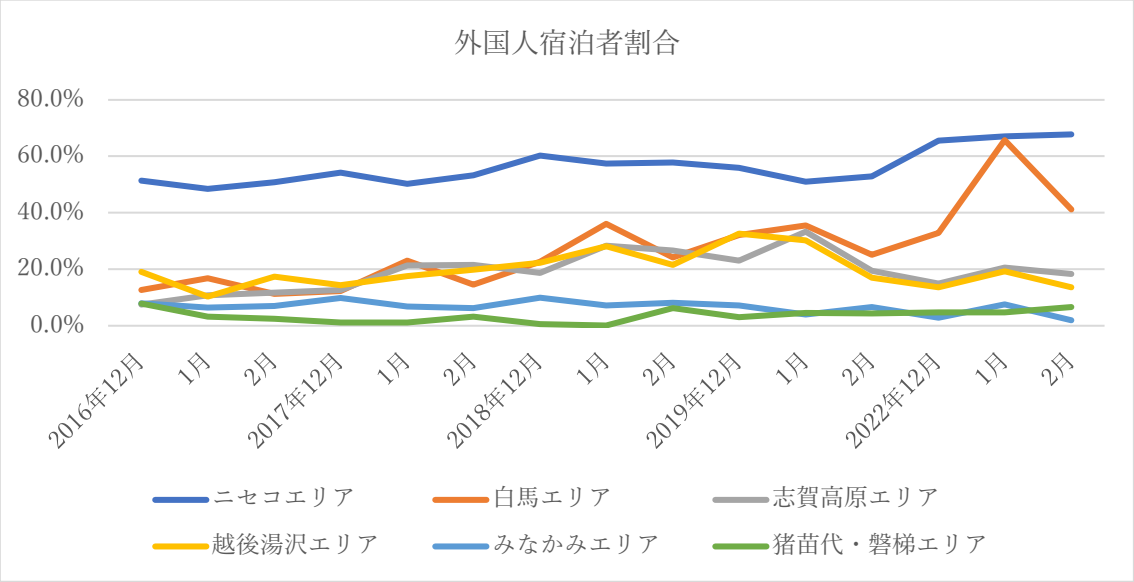
次に外国人延べ宿泊者数を見ていく。図 1 において対象エリアを 3 つのグループ（インバウンド割合が高いと予想されるエリア・比較的多いと予想されるエリア・インバウンド割合が低いと予想されるエリア）に分けた。

図 3 の結果を見るとやはりニセコエリアと白馬エリアは外国人延べ宿泊者数が残りのエリアと比べて多いことがわかる

。ニセコエリアは 2016-2017 シーズンの時点で顕著に訪日外国人が多いが、2018-2019 シーズンからは白馬エリアの訪日外国人が増加していきニセコエリアを上回る結果となった。特に白馬エリアは 2019 年の 1 月には 10 万人近くの外国人が訪れており、6 つのエリアの中で増加率が一番高い。

また、越後湯沢エリア、志賀高原エリアはともに、2016 から 2020 年までは緩やかな増加がみられるが、2022-2023 シーズンはコロナ禍の影響が回復していないのか外国人延べ宿泊者数が減少した。

一方、みなかみエリア、猪苗代・磐梯エリアは外国人延べ宿泊者数が 1 万人を超えることはなく、1,000 人から 3,000 人の範囲に留まっている。



（図 4　各エリアの外国人延べ宿泊者割合の推移：観光庁、各自治体のデータを基に作成）

外国人延べ宿泊者の割合を見ると、やはりニセコエリアは外国人の割合が非常に高い。2016 年の時点でその割合は 51.4%となり、その後も緩やかな上昇を続け 2023 年の 2 月には 67.8%にまで増加している。一方、白馬エリアの割合は、2016 年から 2020 年までは志賀高原エリア、越後湯沢エリアと同じように推移していることが分かった。しかし、コロナ禍明けの 2022-2023 シーズンは外国人延べ宿泊者の割合が大幅に増加し、ピークの 1 月ではニセコエリアと同様にその割合が 60%を超えている。以上の結果から 2023 年現在、ニセコエリアと白馬エリアでは訪日外国人の割合が過半数を超えており、インバウンド誘致に成功しているエリアであることが分かった。

また、図 1 のスキー場の基本場データにもあるようにニセコエリアはエリア共通リフト券が 9,500 円、白馬エリアの共通リフト券は 8,500 円と高額である。両エリアは欧米豪のスキーヤーが多いエリアでもあり、比較的に裕福な観光客が集まりやすいことも影響していると考えられる。とくにニセコエリアは外国資本を中心に発展を遂げているエリアであるため、価格設定は日本人ではなく裕福な訪日外国人に合わせているという印象を受ける。

対して、志賀高原エリア、越後湯沢エリアは 2016 年から年々増加していたものの、コロナ禍明けには減少に転じてしまっている。しかし、2020 年の 1 月には外国人延べ宿泊者の割合が 30%に迫っており、コロナ禍が空けてインバウンド市場が活性化していることを考えると今後の取り組み次第で増加が見込まれるのではないだろうか。一方、みなかみエリアと猪苗代・磐梯エリアは外国人延べ宿泊者割合が 10%未満という結果になった。

次に、図 1 で示した各スキー場における基外国人スキーヤーからの評価を見ていく。

エリア	スキー場	雪質	ツリースキー	ナイトライフ	英語	家族向け
ニセコ	ニセコ東急 グラン・ヒラフ	5	4.5	5	5	5
	ニセコビレッジスキーリゾート	5	4	2.5	5	5
	ニセコアンヌプリ国際スキー場	5	4	2	4	3
	ニセコHANAZONOリゾート	5	4.5	1	5	5
白馬	エイブル白馬五竜	4.5	2.5	1.5	4	4.5
	Hakuba 47 Winter Sports Park	4.5	4	1	4.5	3
	白馬八方尾根スキー場	4.5	2	3	5	4.5
	白馬岩岳スノーフィールド	3.5	2.5	1.5	3.5	3.5
	白馬コルチナスキー場	5	5	0.5	3.5	3.5
志賀高原	焼額山スキー場	4.5	4	0.5	4	3
	奥志賀高原スキー場	4.5	4	2.5	5	4
	志賀高原リゾート中央エリア	4.5	4	2	3.5	3.5
	熊の湯スキー場	5	4	0	2	2.5
	横手山・渋峠スキー場	5	2.5	0	1.5	2
越後湯沢	GALA湯沢スキー場	4	0	0	4.5	4
	苗場スキー場	3.5	2	2	3.5	4.5
	舞子スノーリゾート	4	3	0.5	2.5	4
	上越国際スキー場	3.5	2	0.5	2	4.5
	神立スノーリゾート	4.5	4.5	0	2.5	3.5
みなかみ	水上宝台樹スキー場	4	4.5	0	2	3
	谷川岳天神平スキー場	5	5	0	2.5	1.5
猪苗代・磐梯	猪苗代スキー場	3.5	4	0	1.5	4
	猫魔スキー場	4	4	0	2	3
	箕輪スキー場	4.5	5	0.5	2.5	2.5
	グランデコスノーリゾート	4	3	0.5	3	3
	アルツ磐梯	3.5	3	1	3	4

（図 5　POWDERHOUNDS｜日本のスキーリゾートの評価を基に作成）

今回、評価項目の選定にあたっては、日本を訪れる外国人スキーヤーがスキー場を選ぶ際に特に重要であると考えられる評価項目を選択した。各項目について順番に見ていく。

まず、雪質に対する評価は全体的にみても高く評価されていることが分かる。中でもニセコエリアはすべてのスキー場で評価 5 と最高の評価を得ている。また山岳地帯である白馬エリア、志賀高原エリア、みなかみエリアにおいても雪質が非常に高く評価されていることが分かる。白馬、志賀高原、みなかみエリアはスキー場の最高標高が 1500m以上の場所が多く、気温も低くなるため軽くてソフトな雪になりやすいことが評価に直結していると考えられる。一方、越後湯沢エリアと猪苗代・磐梯エリアも評価は高いと思われるが、やはり標高の低さや日本海側で水分を多く含んだ重たい雪になりやすいエリアでもあるため評価 5 を得ているスキー場はなかった。

ツリースキーに関しては、ニセコエリア、みなかみエリアが高い評価を得ていることが分かった。特に、みなかみエリアは水上宝台樹スキー場で評価 4.5、谷川岳天神平スキー場で評価 5 を得ており非常に高い評価を得ている。一方、白馬エリアはツリースキーでの

評価も高いのかと思われたが思いのほか評価は高くなかった。これは環境的に、標高の高さもあり、森林限界などの影響で樹木が少ないからだと考えられる。

次にナイトライフの評価についてみていく。ここでのナイトライフは夜にスキー場周辺で楽しめるかどうかを評価している。ナイトライフに関しては全体的に評価が低いことが分かった。特にみなかみエリア、猪苗代・磐梯エリアの評価が低い。その他のエリアについても高い評価を得ているスキー場は少ない。しかし、ニセコエリア内のニセコ東急グラン・ヒラフスキー場だけは評価５を得ていることが分かった。このスキー場がある比羅夫地区はニセコの中で最も開発が進んでいる一等地である。また、白馬エリアの白馬八方尾根スキー場においても、評価３とナイトライフの評価全体の中ではグラン・ヒラフスキー場に次いで高い評価を受けている。また、八方尾根スキー場の周辺も一等地エリアや飲食店が多いことが分かった。志賀高原エリアの奥志賀高原スキー場についても高級ホテルが多い場所であるため、エリア内の一等地のような場所はナイトライフの評価も高くなるのかもしれない。

各スキー場の英語に対する評価を見るとニセコは外国資本が開発したという背景もあるため英語の評価が非常に高い結果となっているが、その他のスキー場についてはばらつきが大きい。各エリアのスキー場の平均をとってみるとニセコエリア：平均 4.75、白馬エリア：平均 4.1、志賀高原エリア：平均 3.2、越後湯沢エリア：平均３、みなかみエリア：平均 2.25、猪苗代・磐梯エリア：平均 2.4 となり、外国人が多いエリアほど英語対応に対する評価が高いと考えられる。英語対応の強化は他の評価項目よりも安易に行えるため優先的に取り組むことで外国人を誘致することができるかもしれない。

最後に家族向けのスキー場であるかの評価を見ていく。家族向けの評価に関しては同一エリア内でスキー場によりバラつきあるものの、全面的に見ると高い評価を得ているのではないだろうか。各エリアの平均を求めてみると、ニセコエリア：平均 4.5、白馬エリア：平均 3.8、志賀高原エリア：平均 3、越後湯沢エリア：平均 4.1、みなかみエリア：平均 2.25、猪苗代・磐梯エリア：平均 3.3 となった。各エリアの平均を見ると越後湯沢エリアの評価が６つのエリアの中で２番目に高く意外な結果となった。越後湯沢エリアは冬季の観光客も多く、ニセコ、白馬エリアほどではないが外国人のスキーヤーが多いエリアである。また、バブル期における設備投資の影響で規模の大きいホテルやレストランが多いエリアでもあるのでファミリー層からの評価が高かったと考えられる。

以上の調査を通して、予想通りニセコエリアと白馬エリアは外国人観光客が非常に多く、その割合も非常に高いことが分かった。２つのエリアは全面的に雪質と英語対応の評価が高い。また、エリアの中には外国人目線でもナイトライフを楽しめる場所が存在していることが分かった。調べていく中で、そのようにナイトライフの評価が高い場所には高品質の宿泊施設が多いように感じられた。欧米豪のスキーヤーほどナイトライフを重視するように思われる。すでに外国人スキーヤーが比較的多く訪れている、越後湯沢エリア、

志賀高原エリアはナイトライフの魅力を作ることで、観光地での消費額が多い欧米豪のスキーヤーを誘致することができるのではないだろうか。

猪苗代・磐梯エリアに関して家族向けの評価が高く、英語対応も今後伸びていくと思われるので、集客ターゲットをアジア地域に向ければ多くの訪日外国人を呼び込むことができると考える。

みなかみエリアは現状では訪日外国人スキーヤーが少ないが地理的にはポテンシャルが高いと感じる。とくに、谷川岳天神平スキー場は雪質やツリースキーでは高い評価を得ており、バックカントリーに向いたスキー場である。そのため、家族向けをターゲットにするというよりは、個人や仲間数人でバックカントリーやツリースキーを楽しみたい上級スキーヤーをターゲットにするのがいいのではないかと考える。また、スキー場のそばにバーなどを併設した宿泊施設などがあればなお良いと思われる。

4. おわりに

4.1 まとめ

今回の調査を通してインバウンドが多く訪れるスキー場とそうでないスキー場では大きな差があるように感じられた。インバウンドが多く訪れるニセコや白馬を見ていくとスキー場の設備投資はもちろんだが、ベースタウンへの外国資本の参入やホテルの新規参入が盛んに行われていることが分かった。また、スノーリゾートは夏場の稼ぎを作ることが難しいが、白馬エリアは夏場のマウンテンリゾートというブランディングに成功しており、北アルプスを一望できる展望台やグランピングなどでも人気である。そうした年間を通じて売り上げを出せるようなビジネスモデルもこれからのスノーリゾートの発展には欠かせないものであるように思われた。

また、ニセコと白馬はナイトライフの充実さも評価を得ており、とくに観光地での消費額が多い欧米豪の訪日外国人を誘致していくためにはベースタウンを中心に居酒屋やバーなど飲み歩きができるようなエリアを積極的に作ることが望ましい。

今回の調査では実行できなかったが東京からのアクセスの良さ、各エリアの最寄りの国際空港からの距離など交通アクセス面での調査も行いたかった。また、訪日外国人の国籍の調査や年収も気になるところであり、ニセコエリアでは訪れる観光客が年々富裕層に偏っていると感じられるため消費額や宿泊施設のグレードなどの調査も今後の課題である。

5.　参考資料

・宿泊旅行統計調査｜統計情報｜統計情報・白書｜観光庁
https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html#cp1
・北海道観光入込客数調査報告書（四半期ごとに情報更新）
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.html
・ニセコ町観光統計（観光入込客数調査など）
https://www.town.niseko.lg.jp/chosei/tokei/kanko/
・観光統計/白馬村
https://www.vill.hakuba.lg.jp/gyosei/soshikikarasagasu/kankoka/kankoshokokakari/4/1576.html
・スキー・スノーボード利用者統計調査/長野県
https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/toukei/ski.html
・統計資料一覧-福島県ホームページ
https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031a/kanko-koryu3.html
・JNTO（日本政府観光局）-日本の観光統計データ
https://statistics.jnto.go.jp/
・POWDERHOUNDS｜日本のスキーリゾートの評価｜日本のスノーボードランキング
https://www.powderhounds.com/japan/ski-resorts-ratings.aspx
・2022 InternationalReport on Snow &Mountain Tourism
https://www.vanat.ch/RM-world-report-2022.pdf
・訪日外国人消費動向調査の分析｜国土交通省
https://www.mlit.go.jp/common/001257861.pdf

指導教員からの講評：

研究を行った本人がスキー場に詳しいこともあり，実態をよく反映した調査結果になったものと評価します．スキー場，あるいは自治体により公開されている情報がさまざまで，なかなか横並びで比較することが困難であったかと思いますが，しっかりとデータ収集に努め，妥当な考察に結びつけることができました．全体を通じて，文章が非常にわかりやすく，大変読みやすい論文になっていました．なお，訪日外国人の目的，例えば，スキーなのか，スノーボードなのか，バックカントリーなのか，家族連れか，個人旅行か，また，滞在期間等も考慮した上で，例えば，みなかみエリアや越後湯沢エリアではどのような方策が今後考えられるかといった考察も今後できればよいかと思います．